

植物性屋根資材の認識・活用による自然環境保全と温暖化防止

団体名●三好ゼミナール／代表者名●三好伸子(人間科学部こども学科・准教授)

はじめに

当ゼミにおいては、2019年度から子どもの観察記録の作成や、絵本研究などを行ってきた。しかし2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、人と関わる事が制限された。その中で当ゼミメンバーは、改めて「地域の人と関わり、つながる」学習スタイルの必要性を感じた。そこで「人と協力して屋根を葺く」茅葺文化を外部の専門家や現地の人たちとのつながりを感じながら、子どもに伝えていく教材づくりを目標とした。

日本には、古くから地域集落の里山形態として、住宅の屋根を茅(ススキなど)で葺くための茅場を林間に設けて、人が管理する仕組みがあり、林材資源の確保や野生動物との棲み分けなどが行われていた。近年は屋根資材が瓦や金属などになり、地域に培われてきた自然と人が接して交わる機会が激減している。そのために里山環境の崩壊や獣害を引き起こすなど、地域問題が深刻化している。

「茅葺」及び「茅採取」は、ユネスコ無形文化遺産に登録(2020)される世界的な重要文化である。しかし、茅葺文化に関する子ども向けの絵本は、これまで出版されてなく、本研究活動の独自性は高い。子どもたちと持続可能な社会を考え合う契機となり、地域課題解決の一助となる絵本開発を目指したい。本研究活動目的は、保育者になる学生による茅葺文化(身近な植物の利用の意味・自然環境保全やエネルギー循環等)に関する子ども向けの絵本等の開発である。

活動内容

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて茅刈り体験の計画が2度延期になっている。右(表1)に活動内容を示す。

成果、結果の考察

2021年度活動内容(表1)の①～③について報告する。

①茅刈り体験の事前学習

特定非営利活動法人石川県茅葺文化研究会理事長坂本善昭氏に質問しながら、「茅葺」及び「茅採取」に

ついてオンラインで学習した。計画では、石川県七尾市吉田町の「笹」で屋根を葺いている住居として使用中の「永井家」に集合して、「笹刈り」と「差し茅」を体験する予定であった。その体験学習ための事前学習である。学生の質問と応答を以下に例を挙げる。

(学生の質問 A)「茅屋根に使われる植物は様々があると調べたのですが、茅刈りに適した時期はあるのですか？」

(坂本氏より)「茅は、いろいろな植物の総称で、一般的なものはススキ、カリヤス、水辺ならヨシ、田園ならイネ、コムギなどです。珍しいのはササです。ススキの場合かかれた状態がいいので、秋から雪の降るまでの10月～12月ごろが適しています。ササは、いつでもいいですが、茎に水の上がる6月～8月頃は刈りません。」

(学生の質問 B)「茅葺屋根の耐用年数はどれくらいですか？」

(坂本氏より)「地域の裁量と立地環境次第ですが、昔は一般にススキやヨシは60年～80年くらい持たせました。もちろん間に補修(「差し茅」といい、傷んだ部分を抜き取って新たな茅を差し込む)が必要です。現在は、環境などの影響で10年～20年くらいですが、お金ではない価値や意義、つまり環境寄与とエネルギー循環性能に魅力があります。」

(表1)2021年度活動内容

活動日	場所	内容 ●は延期中
4月12日	金沢星稜大学	活動計画についての会議(打ち合わせ)
6月12日、13日	七尾市永井家	●茅刈り体験(コロナの感染状況により延期)
8月3日	オンライン学習	茅刈り体験の事前学習①
9月17日	七尾市永井家	●茅刈り体験(コロナの感染状況により2021年度は見送り)
11月21日	富山県南砺市五箇山	合掌の里の茅葺の観察・菓子木型体験・(絵本づくりのための体験・資料収集)②
11月30日	金沢星稜大学	五箇山合掌の里のふりかえり(絵本の構成づくり)
12月14日	みずきこども園	子どもとの遊び(手あそび、楽器、貼り絵、茅に関する絵本)③
12月21日	金沢星稜大学	子どもとの遊びのふりかえり・次回の計画・準備
2月26日	本多の森会議室	活動報告(2021年度大学・地域連携アクティブフォーラムへの参加)
3月予定	石川県七尾市	里山の自然文化観察・茅葺の観察(絵本づくりのための体験・資料収集)

②富山県南砺市五箇山合掌の郷

富山県南砺市五箇山合掌の里を見学した。感じたことを生かして絵本づくりの構想を練る予定である。以下が学生たちの感想である。

【五箇山合掌の里の見学・演習の感想】

日本の昔話の世界にタイムスリップした気持ちになった。/イワナ寿司、飛騨牛寿司、五平餅などがとてもおいしかった。/菓子木型体験は、初めてであったが、ていねいに教えてもらって「クリスマス飾りのポインセチア、来年の干支の虎の型のすはま」などを、作ることができた。その場で食べることはできなかったが、持ち帰りおいしくいただいた。/床が高くなっていて、昔の日本人の知恵を感じた。/中に入ると、涼しく感じたので夏は快適で、冬は大変だと思う。/雪に耐える屋根を植物性資材で作っていることに驚いた。/屋根づくりを含めて、集落の人々は、協力し合って生きていたのかなと感じた。/事前学習で聞いた「結」の精神を感じた。/土地の人に郷土玩具を鳴らして見せてもらい、子どもたちと一緒に遊んでみたいと思った。



茅葺屋根の前で



資料館の説明を聞いた後
見上げる茅葺屋根

③みずきこども園での遊び

社会福祉法人陽風園みずきこども園において、子どもたちと茅葺屋根の紹介、手遊び「雪のこぼろず」、郷土楽器遊び(ささらとでんでん太鼓)、和紙の貼り絵遊び、絵本よみ(『やとのいえ』ⁱ、『ゆきのひ』ⁱⁱ)などを実施した。以下子どもの様子と学生たちの感想である。

【子どもの様子と学生の感想】

茅葺屋根の写真を見た子どもたちが、自分の体験と結び付けて「自然体験教室!」と言った。子どもの生活と結びつく教材を作りたい。/茅葺の写真を見て「たぬき」(に見える)と言う子どもがいた。子どもの視点を大切にしたい。/「ささら(楽器)を鳴らしたい」と並んでいた。子どもが喜ぶ姿を見られてうれしかった。/和紙を丸めたり、細くちぎったりして感触を楽しむ姿が見られた。/絵本の茅葺屋根と現代の屋根を見比べて驚いていた。茅葺屋根に興味をもってさらに調べたい。



絵本よみ



手遊び「ゆきのこぼろず」と自己紹介

今後の課題、展望

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて茅刈り体験の計画が2度延期になったため、茅文化についての体験的理解の成果が見えていない。来年度は、学生が茅葺を直接体験学習して、その体験を生かして子どもに適した絵本づくりに取り組みたい。

絵本などの発表の際には、特定非営利活動法人石川県茅葺き文化研究会のSNSや、金沢星稜大学ホームページや、ゼミのSNSを通して、随時活動状況を発信して植物性屋根資材の認識・活用を伝えていきたいと考えている。

i やとのいえ 八尾慶次 偕成社 (2020/7/20)

ii ゆきのひ 加古 里子 福音館書店 (1967/10/10)